

20

電信寫



七六四三 暗 滿洲里
本省

六月一日後着

亞、歐

田中領事

土

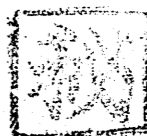
第一八號

支那時局ニ關聯シ支那側ノ當地増兵ハ見合セトナリ英露關係ニ關
シテモ西比利亞鐵道トノ連絡交通ノ如キ平常ノ通りニテ當地ハ今
ノ處何等異狀ナク國境方面モ變化ナキカ如シ「チタ」新聞ハ二十
八、九日兩日英露問題ニ關スル「ブラウダ」社説ヲ轉載シ居ルカ
樂會其他ノ抗議的運動ハ二十九日迄ハ無キ由ナリ

露文

086

電信寫



七七一三 暗

本ノボオシピリス

省 六月二日前着

歐亞

土

田中外務大臣

第一七號

高橋事務代理

本六月一日午後八時頃兵士ヲ滿載セル約二十輛ヨリ成ル一軍用列
車西ヨリ東ニ向フ當地ニテ下車セス通過セリ出發地行先等不明ナ
ルモ爲念

在露大使へ轉電セリ

087

612.0058

陸省

陸軍部

陸

陸同文
電報

參謀次長宛

閩電第一二號 (哈市電)

寺田電

見子ニ在リシ蒙古騎兵ハ烏珠穆沁ニ步砲兵ハ國境

ニ前進セリトテ在梅拉爾軍部ハ緊張セリ

二宿永電 後貝加爾以東一帶ニ直リ勅員ヲ令

セラレタル風評アリ

北京 天津 朝鮮ス

昭和二年六月一日

五月廿一日後 三 一 落 四 六 落

閩東軍參謀長

089

第一課甲

土

6129.23

陸省

陸軍部

陸

陸同文
電報

參謀次長宛

閩電第一二號 (哈市電)

齊ハハ哈爾滿鉄公所長ノ報告要旨左ノ如シ

一 黑龍留守要人等ハ露支國境不穩ヲ釀成シ思

龍江軍ノ出勤阻止ト吳督軍一呼ヒ成シニ努メアルカ

ク第十八師全部ニ出勤命令アリタルモ既ニ出勤セル第

二 二十旅以外ハ應招ノ意志ハ有セサルカ

三 黑龍第二十二旅出勤後ハ昂々溪新編補充旅ヲ首城

及其附近ノ守備ヲ為ス筈ナルカ 新募兵ノ昂々溪ニ於ケル

橫暴甚シク商家ハ門戸ヲ閉鎖シ人心恟々ナリ

又出勤セル第二十三旅中百名ハ昂々溪ニ於テ逃亡シタリ

昭和二年六月廿日 接受

昭和二年六月一日

五月廿一日後 三 一 落 五 四 落

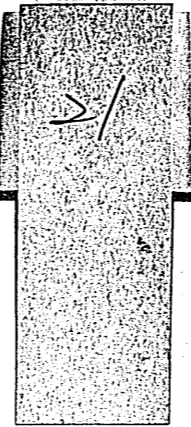
閩東軍參謀長

088

第一課甲

土

電信寫



七九〇七 暗

本省

六月五日後着



亞

土

田中外務大臣

中根事務代理

第八號

開魯縣駐屯東北騎兵第十七旅司令部及同旅第二十八團ハ赤峰ニ移
駐ヲ命セラレ茲一兩日中ニ同地出發ノ筈ナルカ右ハ態度曖昧ナル
林西鎮守使劉巴勝ニ備ヘ(四月二十八日附機密第五七號及客月二
十一日附公信第六五號參照有度)將又萬一ノ場合赤峰ヲ保持セン
トスルモノナラント觀測セラル同旅ノ兵ハ素質不良ヲ以テ名アリ
北京ヘ轉電アリタシ

090



秘

電信寫

七九一七 暗 滿洲里

本省

六月五日

歐一

田中外務大臣

田中領事

第一九號

外務大臣發在滿洲總領事宛電報第九九號ニ關シ
是迄「ザバイカル」ヨリ來滿セル露人中動員ヲ忌避シテ脱逃セリ
ト稱スル者アルモ動員令ヲ發セルヤ事實疑ハシク露國領事ニ就キ
尋ネタルニ自分ハ何等ノ報道ニ接シ居ラサルモ多分風説ニ止ルヘ
シト思ハルル旨答ヘタリ

091

秘

電信寫

22

七九七九 暗

浦潮 本省

六月七日後着

歐、亞

田中外務大臣

渡邊總領事

「ブラゴエスチエンスク」發貴大臣宛電報第三號在浦潮總領事宛
 貴電第九九號ニ關シ當地對岸支那領黑河地方ニハ頃日來恰モ當地
 方ニ動員令發セラレタルモノノ如ク噂シアルモ目下ノ處其ノ事實
 ナ認メス尤モ「チタル」地方ニ於テハ一九〇一年乃至同五年生レノ
 豫備兵ニ對シ過日來簡閱點呼施行中ナリトノ記事六月一日發行ノ
 同地新聞ニ記載シアリ尙露支關係ニ付在黒河支那軍司令官巴英額
 ハ最近呢近者ニ對シ今後萬一露國側ヨリ黒河方面ヲ攻撃セラルル
 場合ハ直ニ適當ノ地點迄退却黒河市ハ露軍ノ占領ニ委スヘク其ノ
 理由ハ支那軍ハ元々馬賊防備ノ爲ノ一千五百ノミナルニ反シ武市
 露軍ハ三千ニ近キモ（黒龍江岸國境支那兵約四千五百露兵六千ト
 巴中將ハ算ヘ居ル趣）露側ノ後方トノ交通聯絡良好ナルニ反シ支
 那側ハ其ノ點亦極メテ不良ナルカ爲ナリト語リタル趣右何等御參
 考迄申添フ

23

電信寫

秘

八二五二 暗

滿洲里 本省

六月十二日前着

歐、亞

田中外務大臣

田中領事

第二〇號

往電第一九號ニ關シ

六月三日當地發「ダウリヤ」及「ボルジヤ」ニ至リ、十日歸來セ
 ル諜報者ノ報告ニ依レハ邊ニ「チタ」附近ノ夏季ノ野營地ニ赴キ
 居タル「ダウリヤ」駐屯部隊歸營シ尙同地方ニ於ケル三十六才迄
 ノ兵役關係者ノ動員準備完了シ之等^{ニ對シ}シテ旅行セサルコト
 及各人十日分ノ^糧麵麩ヲ用意シ置クヘキ旨下命アリタル趣ニシテ
 一般人民ハ張作霖カ積極政策ニ出テ白黨ノ侵入ヲ恐レ居リ對英關
 係ニ付テハ注意シ居ラサルモノノ如シ

田中領事

093



電信寫

新電

秘

八三一九 暗

本 滿洲里
省

六月十四日後着

電

田中外務大臣

田中領事

第二一號

貴電第一〇號ニ關シ

往電第二〇號中左ノ通再電ス

「ボルジャ」ニ至リ十日歸來セル諜報者ノ報告ニ依レハ準備完了
シ之等ニ對シテ旅行セサルコト及各人十日分ノ干パンヲ用意

00 094

54

陸米局

田中

671A.20

亞細亞局

機密第二〇九號

昭和二年六月二十九日

昭和元年七月七日 接受

在瑛春

分館主任 望月純一



外務大臣男爵 田中義一 殿

露國ノ支那側國境警備狀況調査ニ關スル件
報告 (黒頂子分署長報告ニ據ル)

露支國境駐在赤衛軍ハ時局ニ鑑ミ益々國境警戒及出入者ノ取締
嚴ラ加ツ、アルハ屢報ノ通りナルカ本月十二日煙秋ケベウ局
ナンチヤニカハ鮮人通譯朴某ヲ隨ヘ國境各部落ヲ巡廻シ自ラ左

在間島日本帝國總領事館瑛春分館

095

記事項ヲ調査スルト共ニ之レヲ國境各村ソウイエリート會長及共
産青年會長ニ至急調査報告方ヲ命シタル趣ナルカ目下村ソウイ
エリート會長及青年會員ハ國境出入者ニ對シ熾ニ其ノ當該事項ヲ
調査中ナリト

記

一、支那軍警カソウイエリート内政及軍事機關ノ秘密事項調査ノ方
法

ニ、國境駐在支那官憲ノ露支國交斷絶ニ關スル感想並其ノ動靜

三、露支開戦云々ノ風説ニ伴フ支那官民ノ態度及謠言

四、時局ニ伴ヒ支那官憲ノ國境出入者ニ對スル取締及警戒振

五、支那軍警ノ國境警備狀況

在間島日本帝國總領事館瑛春分館

096

六、瑯春ヲ基準トシテ露支國境ニ駐屯セル支那軍隊ノ所在地名人員及時局問題ニ伴ヒ増員ノ有無
七、國境駐在支那軍ノ武器、機關銃、大砲等ノ配置狀況
八、赤衛軍、兵力調査ノ爲メ探偵ノ使用有無
九、支那軍警カ各種調査事項ノ爲メ私服其他變裝シテ越境入露スル事實ノ有無
十、支那軍警ノ毎日常露支國境巡 回數

右課知ノ儘報告ス

本信寫送付 在支公使

- 問島 奉天 哈爾濱 吉林各總領事
- 齊々哈爾領事
- 局子街 頭道溝 百草溝各分館主任

在問島日本帝國總領事館瑯春分館

並細監局
機密第五四號

昭和二年七月一日

昭和元年七月拾貳日接受

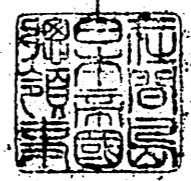
國境

歐米局

加瀬

在間島

總領事鈴木要太郎



098

亞二
三浦
外務大臣野田中義一殿

吉林督軍ノ國境封禁訓令ニ關スル報告

(彈春署長及同頭道溝分署長報告ニ據ル)

本件ニ關シ吉林督軍兼省長張作相ヨリ在彈春支那陸軍第二十九團長及同縣知事宛訓令並最近ニ於ケル同軍憲ノ國境取締概況左ノ如シ

記



cf 612.007
6124.20

吉林督軍訓令要旨

ソライエト政府ノ赤禍ハ世界的惡魔ト稱セラルルハ一般周知ノ通りナルカ彼ノ最近ニ於ケル害毒注入手段ノ著シキモノヲ舉ケレハカラハン大使ノ陰謀ホロカシノ中國共產黨組織馮軍ニ對スル武力援助等ニシテ彼等ハ尚嫌ラス近來黑龍洲及沿海洲地方軍務官憲ヲシテ中韓人ノ不浪輩ヲ操縦シテ細胞軍務部隊ヲ組織シ以テ安國軍ノ不利ニ乘シ三省内ノ治安攪乱ヲ策シ目下具體的ニ進行シアリト言ス各官ノ努力ニ依リ未タ變動ヲ見サレハ欣喜ニ堪ヘサレ處ナレニ事爰ノ勃發ハ之ヲ豫測シ難キヲ以テ各軍務長官ハ地方長官ト協力シ國境ヲ封禁出入遮斷ノ措置ヲ講シ以テ赤禍ノ防遏ニ努ムヘシ云々

叙上ノ訓令ニ基キ在琿春第二十九團長及同縣知事
ハ直ニ連署ヲ以テ次ノ如キ罰則ヲ設ケ縣下國境各
主要地ニ佈告シ嚴重取締ヲ勵行シツツアルカ之
カ爲メ國境地方各市場ハ頃日未頓ニ衰頽ノ狀ヲ
呈シ同地方貿易ニ從事スル鮮支人等ハ本令永續
セラレルニ於テハ他ニ引揚クルノ外ナシト憂慮シ居
レリ引續キ視察中ナリ

罰則

一 琿春縣ニ住址ヲ有スル者カ露領へ旅行シタルトキ
ハ一日以上五日以内ノ拘留又ハ一元以上五元以内ノ
罰金ニ處ス

二 露領ニ住址ヲ有スル者カ琿春縣内ニ旅行シ來タル
トキハ一應琿春縣公署ニ送致ス

三 露領ニ住址ヲ有スル者ヲ隱泊セシメタルモノハ第一
項ノ處罰ニ準ス

四 琿春縣以外ノ地ニ住址ヲ有スル者カ露領へ旅行シ
管内ニ入りタルトキハ笞刑ニ處シタル上管内ヨリ
放逐ス

五 本令ハ支鮮人ノ別ナク直ニ實施ス

以上

本信馬送付先

北京公使、奉天、吉林、哈爾濱各總領事

安東領事、通化公館主任

管内各公館主任各署長分署長

朝鮮總督、咸北、咸南、平北各知事

朝鮮軍參謀長、第十先師團參謀長、朝鮮憲兵隊司令官

羅南憲兵隊、延吉派遣員

亞細亞局

機密第一六二號

第一課甲

昭和貳年七月拾八日接受

石原



昭和二年七月七日

在局子術

副領事

近藤信一



歐米同

之

外務大臣男爵田中義一殿

露支國境方面防備ニ関スル件

對露警戒ノ為メ當地駐屯第十三旅第九團
第二營中ヨリ歩兵一ヶ連及迫撃砲一門ヲ琿
春縣下露支國境方面ニ向ケ増派シ六月二十九
日當地ヲ出發セリ右報告ス
本信照送付先

在支公使

奉天吉林、間島各總領事

琿春分館主任

朝鮮總督

26

歌米局

加藤

機密第二三五號

昭和二年七月十八日

在 瑛春

分館主任

望 月

純 一

郎



外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

露支國境封鎖ニ關スル件

本件ニ關シ牒者ノ報告ヲ綜合スルニ左記ノ通ニシテ之カ爲メ當地
商況ニ鮮ラサル影響ヲ及ホスモノノ如ク、從テ從來露領ヘ密輸出
セラレツツアリタル本邦製酒精粗布類雜貨等ノ輸入ニモ相當打撃
ヲ蒙ルニ至ルヘク觀測セラレツツアリ

在間島日本帝國總領事館瑛春分館

露支國境封鎖最中

臣細田

昭和二年七月十九日接受

Handwritten signature or notes in Japanese.

101

記

露支國境交通狀況

露支國境交通ニ就テハ從來赤露官憲ニ於テ無許可越境者ニ對シテ
ハ相當取締ヲ爲シ居タリト雖モ國境在住鮮人ハ兩官憲ノ警戒ノ隙
ヲ窺ヒ或ハ親戚訪問又ハ需要品購入ノ名義ヲ以テ巧ニ相互連絡ヲ
執リ往來シツツアリタルモ客月中旬以來露支官憲ニ於テ愈々國境
ヲ封鎖シ各々罰則ヲ揭示シ越境者ニ對シテハ容赦ナク處罰スルヲ
以テ國境在住者ハ其ノ用務如何ヲ問ハス容易ニ出入スルコト能ハ
ス而シテ萬止ムヲ得サル事情アル場合ハ何レモ境界ニ見張者ヲ立
タシメ官憲ノ來着有無ヲ確メタル上越境シ瞬間的ニ用務ヲ了シ歸
還スル狀態ニシテ近時晝間ニ於テハ殆ント越境者ノ影ヲモ認メサ

在間島日本帝國總領事館瑛春分館

102

ル状態ナリト

支那官憲ノ國境取締ニ關スル罰則

- (一) 官憲ニ申告セスシテ露領ニ出入スル者ニ對シテハ其用務如何ヲ問ハス所定規則ニ依リ嚴罰ニ處ス
- (二) 露領ヨリ入國シタル者ニ對シテハ共產黨及外國探偵取締規則ニ依リ直チニ逮捕シ上級官廳ニ押送ス
- (三) 支那領ニ住所ヲ有シ親戚ノ重病又ハ生死ヲ通知スル爲露領ニ往復セントスル者ハ最寄ノ警察機關又ハ保衛團ニ出頭シ身元保證人二名連署ヲ以テ許可ヲ受ルコト
- (四) 警察機關(保衛團ヲ含ム)ニ申告セス來者^外ヲ自宅ニ投宿セシメタル者ニ對シテハ五元以上ノ罰金ニ處ス

在間島日本帝國總領事館瑛春分館

103

- (五) 各社長、統長、屯長ニシテ其受持區内居住者ノ露領出入又ハ外來者ノ投宿並ニ滞在ヲ知り之レヲ警察機關ニ報告セサル者ハ所定規則ニ照シ嚴罰ニ處ス
- (六) 以上各項ニ就キ實行スル爲メ常ニ警備兵ヲ國境ニ派遣シ其取締ニ從事セシムルト共ニ各統長屯長ニ外來者調査名簿ヲ配布シ毎日一回宛當該官署ニ届出テ其官廳ノ檢印ヲ受ルコト

露國側官憲ノ越境者取締規則

- (一) 越境者ニシテ保安部員(ケベウ)ヨリ停止命令三回ニ亘リ之レニ應セサル者ニ對シテハ之レヲ射殺スルコト
- (二) 外國ヨリ無證明越境者ヲ投宿又ハ滞在セシメタル者ニ對シテハ三ヶ月間ノ自由拘禁ニ處ス

在間島日本帝國總領事館瑛春分館

104

(三) 露領居住者ニシテ官憲ノ許可ヲ得ス外國ニ出入スル者ニ對シテハ一ヶ月以上ノ自由拘禁又ハ退去ヲ命ス

(四) 日支官憲又ハ其ノ密偵ト親戚關係ヲ有シ連絡ヲ執リソウエト國內ノ秘密ヲ漏洩シタル者ハ死刑又ハ十年以上ノ自由拘禁ニ處ス

(五) 露領居住者ニシテ其家族カ既ニ支那領又ハ朝鮮ニ旅行或ハ滞在スル時ハ所轄ケベウ局又ハ警察機關ノ許可ヲ受ケ來ル七月末日以内ニ歸宅セシムルコト

(六) 露領ニ住所ヲ有スト雖モ既ニ支那領及朝鮮日本ニ赴キ官公吏又ハ有産者ノ經營事業ニ従事スル者ハ之レヲ呼寄スルコトヲ得ス

露支官憲ノ國境警戒狀況

露支官憲ノ輓近ニ於ケル國境取締嚴重ナルコトハ既報ノ通りナル

在間島日本帝國總領事館瑯春分館

カ支那側ニ於テハ黑頂子駐在第十連、高等警察分署、及九沙坪第三區分所巡警（陸軍ハ排長若クハ下士ヲ長トスル五名乃至十名ヲ高等警察及地方警察ハ巡警三名乃至四名）ヲシテ各々三日間ニ一回宛國境方面ヲ巡邏セシメ出入國者ニ對スル取締ニ従事シ赤軍側ハハンシ、中瑯春「ケベウ」ヨリ各三名宛常ニ國境巡邏勤務ニ従事セシメツツアル由ナルカ彼等ハカラランチン（五家子部落ヲ去ル東方約十二町元露國稅關監視所々在地ニシテ這回ケベウ監視所新設計劃地點ナリ）ヲ交通地點トナシ毎日午前十時午後五時ト二回宛中瑯春「ケベウ」トハンシ「ケベウ」トノ交通連絡ヲ取リツツアルカ該「ケベウ」何レモ五家子境界ニアル支那人家屋（境界ヲ距ル約二百米突支那領ニアリ）ニ立寄一時間乃至二時間ノ休憩ヲ

在間島日本帝國總領事館瑯春分館

爲シ其ノ家人ニ對シ支那軍警ノ國境警戒振リ其他參項事項ヲ尋問
スル事實アリト

右何等御參考迄報告ス

本信寫送附先

在支公使

間島 奉天 哈爾濱 總領事

齊々哈爾 萬洲里 領事

局子街 頭道溝 百草溝 各分館主任

在間島日本帝國總領事館瑛春分館

27

電信寫

昭和2 一三八一六 暗

滿洲里 本省

十月二十日前着

並

田中外務大臣

田中領事

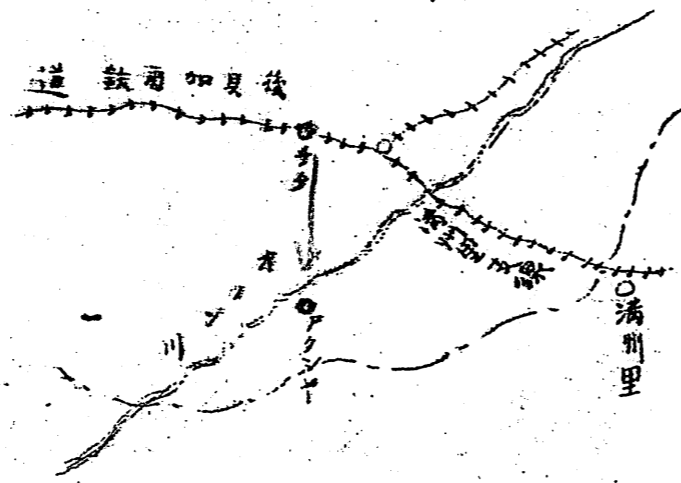
第三四號

「ボルジャ」驛及外蒙「サンベイス」ヨリ山西軍宛武器ヲ輸送説
 アルニ依リ當地ヨリ「サンベイス」ニ至ルヲ要衝ニ當ル「ダシマ
 ク」(當地ヲ去ル三十五露里)ニ人ヲ遣シ事情取調セシメタル
 「サンベイス」ヨリハ十月九日約百八十ノ蒙古兵二十臺ノ自働車
 ニ分乘シテ「ダリガメガ」ヘ赴キタル外兵ノ移動ナク「サンベ
 ス」及其管轄内ノ軍隊ハ從前通第五大隊約五百人ニシテ其内ニ
 人教官一名「カルムイク」教官七八人「ブリヤート」人八十八人

アリ其本部ハ最モ？國境ニ接近シアリ

「ボルジャ」ヨリハ主トシテ「ベンジン」及麥粉ヲ輸送シ居リ「
 ボルジャ」ニアル貨物ハ約三百噸位ナリ滿洲里方面ヨリハ麥粉ヲ
 主トシ防寒外套及靴等ニシテ「ダシマク」ヨリ露國常取扱會社「
 トランスポルト」ノ手ニテ自働車ニ積換ヘ外蒙ニ輸送ス十月八九
 日迄ニ滿洲里ヘ歸來スル自働車ニシテ「サンベイス」ニ止メラレ
 タルモノ及同地ニ差廻サレタル自働車三十四五臺ハ右兵員及貨物
 ノ輸送ニ充テラレタルモノノ如ク尙海拉爾ヨリ外蒙行防寒外套積
 取リノ爲十七日「ダシマク」ヨリ「ガンジュール」ニ向ケ自働車
 十七臺出發セリ最近當方面ヨリ外蒙ヘ仕向ケ又註文中ノ防寒靴約
 二千人分内外ハ軍隊用ナルモノノ如シ當方面露國軍隊ハ外蒙ヘ移
 動シタルコトナキ由

北京へ電報シ奉天、哈爾濱へ暗送セリ



秘

昭和二年十月十五日

十月十四日午前十時。分發
午後五時五分著

陸軍次官宛

關東軍參謀長

關電二七四 (哈市電富永報)

信スヘキ謀者ノ言ニ依レハ今月四五日

頃赤軍騎兵約六百ヲ夕モリ

クシヤレ(夕夕南方露蒙國境附近)

ニ来リ該地ニ停止シアルモノ如ク其

目的確カナルサルモ支那時局ノ變

轉ニ關係スル如ク觀察セララル

參考迄

子悦